

サポート・ご協力 ありがとうございます

2009年3月1日 **Vol.62**

■平成20年度新規・継続会員(敬称略・順不同、2008年12月1日～2009年1月31日)

- (正会員)
加藤哲夫、杉本隼人、AKK仙台、(特)世界快ネット、(特)やまがた育児サークルランド
- (準会員)
小島妙子、山口宏

お知らせ

みやぎNPO 夢ファンド公開コンペ

みやぎNPO夢ファンド第1次審査(書類審査)通過団体
プレゼンテーションと第2次審査を行います。

- 平成21年4月11日(土)
ステップアップ支援プログラム
- 平成21年5月9日(土)
組織開発(人材育成を含む)支援プログラム・スタート
アップ支援プログラム
- 場所:みやぎNPOプラザ
- 事前申込不要

**入場
無料**

加藤哲夫のNPO経営相談

開催日: 平成21年3月26日(木)
平成21年4月21日(火)

開催時間: 13:00～17:00

場 所: せんだい・みやぎNPOセンター

相談料: 2,500円(1時間単位、会費は500円引き)
※予約制です。まずはお電話を。

栗駒・花山の現状と私たち宮城の市民に 何ができるかを考える集いⅡ ～阪神淡路大震災に学ぶ～

栗原会場: 3月13日(金)18:30-21:00
栗原市市民活動支援センター

仙台会場: 3月14日(土)13:30-16:00
パレス宮城野 萩の間

※予約制です。まずはお電話を。

**入場
無料**

| 編 | 集 | 後 | 記 |

星座占いだと、今年の私は12年に1度の大ラッキー年らしい。
その大ラッキー年もウカウカしている間に、はや3ヶ月目に
突入しようという勢いだ、今大ラッキーには出会えな
いでいる(と本人は思い込んでいる)。

どうしたんだ?! 大丈夫か?! 星占い?!
(OGAWA M)

当センターのエレベーターホールは、今年に入って枝もの
の花が咲いています。1月は香りのいい「ろう梅」。
ただいまは桃と桜です。ひな祭りも近くなりました。
あとは、桜餅やうぐいす餅かな。
(べにむら)

連絡先・振込み先など

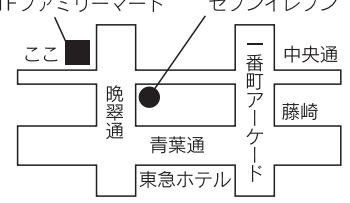
特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F
TEL:022-264-1281 FAX:022-264-1209
E-mail:minmin@minmin.org HP:http://www.minmin.org/

▼会費・寄付のお振り込みは、こちらへ!

郵便振替:02260-3-16325
仙台銀行 中央通支店 普通 4094031
加入者:特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

発行:(特活)せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事 大滝精一・加藤哲夫 1Fファミリーマート セブンイレブン
編集部:小川真美・紅邑晶子
発行日:2009年3月1日
デザイン:氏家朗



岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15～20分

みみん

俊 【題字】谷川俊太郎さん

MY FAVORITE お気に入り小物拝見



理事対談のゲスト、宮城県環境生活部NPO活動促進
室長森さんのお気に入り小物は、皮製の鞆。側面がし
っかりした造りになっているため、電車の中で書き物
をしたりするのに、とても重宝なのだそう。就職
活動中から何度も買い換えていて、今の鞆の代目。
最近では電車でも書くことも無くなったので、この
デザインにこだわらなくてもいいんですけどねとち
よっと苦笑い。キャリアアウーマンならではの逸品です。

■目次

- P2～3 理事対談
- P4～5 せんだい・みやぎNPOセンターの事業から(2008年12月-2009年1月)
- P5…… チョットかじってみよう! CSR
- P6…… 寄稿「地域の中で人と思いをつなぐ仕組みづくりを」 高井 昭平さん
理事リレーコラム「私と市民活動10年」 紅邑 晶子
- P6～7 CARES・ケアーズ
- P7…… 活動ダイアリー
らんち de MATCH♪
- P8…… 新規会員・継続会員、編集後記、お知らせ、連絡先等

理事対談

「NPOと行政のこれからを創るエッセンスとは」

理事対談第5回は、宮城県環境生活部NPO活動促進室長森奈美さんと、大滝精一代表理事の対談です。今回は、コーディネーターに紅邑晶子理事も交え、NPOと行政がそれぞれに求めるこれからについて、熱く語り合いました。

■行政の仕組みを引き出す力をもつ大人のNPO誕生が急務。

紅邑/森さんは、この2年でNPOをどんなふうに見え止めるようになりませんか？

森/最初の仕事はNPOファンドの審査会だったんですが、すごいなあって思いました。情熱的っていうか、世の中捨てたもんじやないなって。社会が冷たくなったという気がしていたけれども、自分のためじゃなくて、人のために、社会のために何とか良くしようっていう人たちがこんなにいる、こんなに頑張っているんだっていうのがわかって、安心したっていうか、良かったなって気持ちになりました。

紅邑/森さんは、行政としてはどういうことを担ってほしいと思いますか？

森/私の部署に限らず行政側には、とにかくNPOの話を聞いて欲しいなと思いましたね。

紅邑/なんで聞かないんですかねえ

森/行政は話を聞かなくていいとか、縦割りだの、動きがのろいだの何十年もずっと言われ続けてきているのに、やっぱり変わらないんですよ。変わらないんだしたらあきらめてですね。(NPOは)行政を利用しようぐらいの気持ちで…

紅邑/協働っていう前にですか？(笑)



ゲスト

森 奈美さん
宮城県環境生活部
男女共同参画推進課長
NPO活動促進室長

森/そう協働の前に！行政は仕組みがあって、県庁は国が作った仕組みをそのままやらなくちゃいけない立場の場合もあって、いくら県に言っても変えられないことがたくさんあると思うんですよ。だったらもう逆に、行政の仕組みを聞き出して、その隙間から『この部分はのつかれるんじゃないか』っていうのを探していくような話の仕方をすると、ちょっとは接点ができるんじゃないかなあって思っているんですよ。

大滝/わたしもNPO法ができてから10年たって、NPO自体が一度も大人になっていく必要があるのではないかなあ、と思うんですよ。行政の掌にのつかっているような顔して、本当は行政を利用しているんだ、みたいなね。それは対企業にしても言えることで、企業にも企業の思惑とかがあってNPOに近づいてくることもあるわけで、そこを逆手にとっていく、そういう大人になったNPOが出てきてもいいと思うんですよ。行政が悪いっていうじゃなくて、名をすてて、実をとるみたいなNPOが出てこない、NPOのセクターが伸びてこなくなってしまう。

■NPOの連携は点から線、線から面へ。

紅邑/対話はNPO側も足りないと思うんですよ。でもそれは一個一個だと、なかなか難しいと思うので、NPOセクターみたいなまとまりを持った形で行動を起こしていくことが、そろそろ必要なのかなと思うのですが

大滝/3万を超えるたくさんNPO法人が出てきていて、任意の団体を含めたらもっと増えてきている中で、確かにNPOって、地域の中に定着しているし、それなりの認知を得るってところまではきていると思うんだけど、やっぱり「点」なんだよね。それぞれの点のところ、みんなが必死になって頑張っているところから、もう一つ外に出て行かないといダメなんじゃないかと思うんですよ。なかなか人材も育成できないし、そのエリアのNPOそのものの発言力とか影響力っていうのも一つの力だけではなかなか上手くいかないっていうような事が起こっていて…。点から線なのか、線から面なのかよくわからないけど、組織の外に出て行くということをNPOの側もそうとう真剣に考えないといけない。良く言うと安定・定常の状態になってきていると言えるんだけど、悪くすると、ここから全然伸びていかないっていうか、伸びていくNPOより淘汰されちゃうNPOのほうがはるかに多くなってきちゃうんじゃないかっていう心配はありますよね

森/私も、このままじゃNPOはなくなるんじゃないかと心配で…。今あるNPOはお年寄りの団体になってなくなってしまう、新しい世代はNPOに入っていないんじゃないかと。「いや、そんなことはない」という方もいらっしゃるんですが、人のために社会のために頑張りたいっていう志はなくなるんじゃないけれども、それは

NPOという組織じゃなくって、別の形態に移っていかざるをえなくなってしまうんじゃないかって。NPO界の若い人材育成が出来ているかという不安もあって、今後NPOが人材育成をしていくためには、やっぱりネットワークっていうのが必要だと思うんですよ。せっかくNPO法っていう法律が10年前にできて、ここまでこんな素晴らしい組織が育ってきて、どんどん活躍できる土台がやっと出来たんだから、この後の10年ももっともっと良い団体に育って行けるように、せんだいみやぎNPOセンターにはネットワーク作りをやっていただきたい。ぜひ、そのためにもランチと飲み会を企画してください。

紅邑/やっぱりそこですか！(笑)！



■ミドルマネジメントが次の世代へつなげる鍵

大滝/NPOセンターが中心になって、同じような活動をしているNPOのネットワークを作るとか、あるいは異種のネットワークを作るっていう話ね、それはもちろん我々のミッションなんで、大事なことなんだけど、最大の悩みの一つはミドルマネジメント。本当に力のあるミドルマネジメントが出てこない、次の世代に繋がってこないんですよ。中堅から現場に近い人たちがどうするのかは、NPOセンターとしてもすごく大きな課題なんです。ここをうまくブレイクスルー出来ればいいのですが。そのためにはもっと、センターの職員、あるいはサポセンの職員自体もいろんな機会を捉えて外に出て行く機会を与えないと、難しいですよ。

紅邑/自発的にといってもなかなか難しいので、去年からうちでは評議員になってくださっている団体でスタッフを月に1回研修させてもらいました。…強制的にでも組織で取り組むようにしないとだめなんだあってやっと気付きました。

大滝/なかで仕事をしていると、エキスパートになっていく点ではいいように見えるんだけど、本来のNPOのミッションと、この持っているミッションとが乖離してっちゃうっていうか、本当に難しいんですね。灯台元暗しみたいな。本当はいろんなNPOと繋がっているはずなのに、もう、ひたすら自分のところしか見てない。

紅邑/仕事のひとつとして組み込めばやらざるを得なくなるわけですよ。行政職員もNPOの現場に出すべきだと思うんですよ。森/人手に余裕があれば、それもあるのかなあ。県は企業に研修に行く場が何箇所あるみたいですが、すごい人気で、なかなか応募しても行かせてもらえないみたいですね。私も人事課の今後の希望の欄に、企業に研修に行きたい！って毎年書いてるんですけど…

紅邑/逆にNPOの人を中にいれて、それで一緒に活動するっていうのも、ありだと思うんですよ。

大滝/今の日本の置かれている状況から見ると、行政から企業に行くと勉強するってこともたくさんあると思うけど、行政からNPOとか、NPOが行政に行くとかって言う事をやったほうが、ずっとお互いにとってメリット大きいと思うけど。特に宮城県内という地域に限定されているところで、地域の事を深く知る、そこで何かあるかっていうことを本当に実感として味わうというんだしたら、行政の職員が力のあるNPOにいてみるって言うのはメリットが凄く大きいと思うけど。ドラステックな発想の転換とかって意味でいうと、民間に出て行くこと自体はすごくいいと思うんだけど。

紅邑/NPOと行政の人事交流の話。もっと早く森さんと話ができるよかったですね。ところで、ほかになにか言い残したことはありますか？(笑)

森/大丈夫です

紅邑/今日はありがとうございました！

(記録・編集:大西千佳)

大滝 精一さん
東北大学大学院経済学研究科教授
せんだいみやぎNPOセンター代表理事



みやぎNPO夢ファンド 中間報告会

1月10日(土)、仙台市宮城野区のみやぎNPOプラザ交流サロンにおいて、みんなファンドの冠ファンドである「みやぎNPO夢ファンド」(宮城県との協働事業)の中間報告会が開催され、今年度助成を受けた11団体がこれまでの事業成果を発表しました。

■ 中間報告会の目的と当日スケジュール

中間報告会は、昨年4月と5月に審査を受けた助成団体が12月までの約6ヶ月間で行った助成事業の経過とその事業成果を発表し、運用委員との質疑応答で事業に関するアドバイスをもらう目的で行っています。当日は、午前10時から「ステップアップ支援プログラム(3団体)」のプレゼンテーションと質疑応答、その後、同プログラムの継続審査が行われました。午後1時から「スタートアップ支援プログラム(3団体)」、「組織開発(人材育成を含む)支援プログラム(5団体)」のプレゼンテーションと質疑応答を行いました。

■ ステップアップ支援プログラムの 継続審査結果報告

100万円を最大3年という「ステップアップ支援プログラム」の助成団体の継続審査では、「特定非営利活動法人みやぎ発達障害サポートネット」と「特定非営利活動法人ネットワークオレンジ」の2団体の助成継続が決定しました。両団体とも来年度は、最終年度3年目の助成となります。なお、「特定非営利活動法人ふるさと防災センター」は、残念ながら2年目の継続とはなりません。

■ 夢ファンド助成事業の経過をブログで公開

今年度は、助成を受けた団体のなかにファンド助成事業の経過をCANPANブログで公開していた団体がいくつかあったので、プロジェクターでそのブログを映し出し、紹介することができました。なかでも組織開発(人材育成を含む)支援プログラムの「仙台市森林アドバイザーの会」からは、ブログで夢ファンド助成事業を社会一般に公開していたことがきっかけで、CANPAN「市民活動と企業の寄付のあり方を探る」モデルプロジェクトの対象団体に指定され、40万円の寄付を頂き、活動を社会一般に発信することの大切さに気がついたという、うれしい報告がありました。(谷口恵子)

せんだい・みやぎ NPOセンター新年会

1月15日(木)、仙台市市民活動サポートセンター地下の市民活動シアターにて、当センターの新年会が開催されました。NPOを始め、企業、市民、行政など、多彩な分野からたくさんの方々にお集まり頂き、70名を超える大盛況の一夜となりました。

■ 趣旨

日頃活動する中で、「A団体とB団体は当然お知り合いなのだろう」と思っていると、全く交流なしという事実が驚いたり、企業から「協働にお薦めのNPOは?」などの質問をいただくことが多々ありました。そんな中、浮かび上がったのが「出合いの場の提供」。NPO×企業×行政×市民、そんな「場」を提供したい! 昨年の秋、その想いでこの企画がスタートしました。

■ 心構え

「お客様にどれだけ当センターのホスピタリティを感じて頂けるかが重要!」紅邑常務理事の号令のもと、スタッフは「正装もしくは仮装」。心からお迎えして、心から楽しんで頂く! 参加スタッフ総勢18名、昼過ぎから買出し、調理、会場設営と、実は裏方はてんやわんやの大忙し。中には仮装の為、慌てて100均ショップに駆け込む者も。

■ 当日

黒澤常務理事の開会宣言に続いて奥山仙台市副市長からご挨拶を頂戴し、会場は最初からヒートアップ。多くの方と知り合っただけで、ある仕掛けを準備していたのですが、その説明をする間もなく皆さん夫々に会話を始められており、主催者としては嬉しいやらちょっと悲しいやら。

和気あいあいと会話が進む中、テーブルには手料理やおつまみ、お酒と、参加者の皆さんからの差し入れていっぱいになりました! 後日、感想を伺うと、「顔は知っていたが話したことがない方と話せてよかった」「プログラムが練られていて楽しかった」「スタッフ総出が好印象」など、ありがたい声を頂きました! 今回見逃した方、次回はぜひお待ちしております! (小川真美)



「NPO法施行10年」 地域意見交換会

12月20日(土)、仙台市市民活動サポートセンターを会場に民主党(企業団体対策委員会:NPO担当)と市民がつくる政策調査会との共催で「NPO法施行10年」地域意見交換会がありました。翌21日(日)は同じ会場において当センター主催で「NPO法学習会 in せんだい」を開きました。

■ NPOのこれから10年の課題

地域意見交換会には民主党側からは国会議員3名、自治体議員3名の参加があり、NPO側からはさまざまな分野から12名の参加がありました。

主催者挨拶のあと、当センターの加藤哲夫代表理事より話題提供として、NPO創世期のこれまでの10年の成果と、NPO発展期のこれから10年の課題が挙げられました。その中で、特に政策とかわるは、現在はNPO側からの政府への提言や交渉が税・法制度の働きかけにとどまっているということで、今後は政府とサードセクター間での政策方針についての協議などが必要になるとの指摘がありました。

その後、各参加者からの自己紹介と団体の活動内容の紹介に移り、国の政策についてNPOの参加者からも活発な意見が出されました。民主党の政策についても鋭い指摘があり、議論が盛り上がりました。



■ NPOは変化に対応して善循環を

NPO法学習会の講師は「シーズ・市民活動を支える制度をつくる会」事務局長の松原明さん。硬いテーマにもかかわらず、30名もの参加があり、NPO法改正をめぐる最新の動きや公益法人制度改革についてお話がありました。

このような制度的変化に加え、NPO活動の支援者にもニーズの変化があり、NPOもそれに合わせた経営思想のチェンジが必要とのことでした。そして支援者対応に力を入れ、参加プログラムを提供していくことでNPO経営の善循環を図るべきであるということが強調されました。(布田剛)

チョット

かじってみよう! CSR。 6

~CSRセミナー

「世界一簡単なCSR報告書の作り方」~

1月26日(月)、仙台市市民活動サポートセンターにて、IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表の川北秀人さんと、日本財団CANPAN運営事務局の荻上健太郎さんを講師に招きCSRセミナーが開催されました。「地域の企業が本気でCSRしなきゃいけない10の理由」を副題にしたこのセミナーは、対象を「活性化と経営革新を望む中小企業の方」に絞り、企業に特化して企画されたものです。参加者は10社、16名とそれほど多くなかったものの、質疑応答や情報交換にと、講師を含め参加者同士が活発に意見交換する姿が見られました。

まず最初は川北さんによる、これからの社会におけるCSRのあり方、パンフレットとCSRレポートの違いとその読み方などの講義。次に、急遽インフルエンザに倒れた紅邑常務理事のピンチヒッター、加藤代表理事により「せんだい・みやぎNPOセンターのCSR推進の取り組みから」というテーマで、当センターのCSR推進の取り組み状況や、CSRへのNPOの関り方などが語られました。続いて荻上さんより、実際のCANPAN画面をスクリーンに映しながら、効果的なCSR情報発信の仕方やツール紹介が行われました。

3つの講義の後は「CSR報告書作成ワークショップ」が行われました。最初に各人が組織における「環境」「安全」「健康・人権」について、これまでとこれからの取り組みを用紙に書き出し、次に他者が書いたその用紙に付箋で夫々の提案をのせていきます。最後に、その付箋を基にグループディスカッションを行い、意見や情報交換の時間をもちました。

アンケートでは「社外の人との情報交換できて参考になった」という声もあり、「CSR推進相談所」の看板を掲げる当センターとしては、今後もこういった情報の提供に努めていくことの必要性を再認識しました。

(小川真美)

詳しくはこちらをご覧ください

http://blog.canpan.info/csraward_2008/category_6/

●全国の支援センターから

「地域の中で人と思いをつなぐ仕組みづくりを」

(特活)いわてNPOセンター 理事長 高井 昭平さん

岩手県内の市民活動支援を始めたことを契機に、NPO法人花巻文化村協議会から当法人を設立して5年が経ちました。現在は市民活動支援事業と地域資源を活かした地域振興ビジネスの支援事業、若者等の就業支援事業、指定管理事業を行っています。

若者等の就業支援事業では、盛岡地域若者サポートステーション(以下「サポステ盛岡」)を平成18年度に設置し、15歳から概ね35歳未満の無業の方の就職相談、講習など就職支援を行っています。(地域若者サポートステーション事業:厚生労働省)

サポステ盛岡では、20日間の就業体験の実施、グループで就職活動を行う「就活実践クラブ」など、就職するための支援に力を入れています。就業者は、13名/H18、35名/H19、57名/H20(1月末時点)となっており、就職支援のノウハウも蓄積され、就職決定率は年々上昇しています。今後は、1ヶ月以上の就業体験や就業体験中の方をサポートする指導員(メンター)育成などの強化を図り、就職への一歩を後押しする支援を進める予定です。

6年目を迎え、思いをつなぐ人材育成の仕組み、事業をソーシャルビジネスとして再構築し自立・持続可能な組織づくりに取り組みたいと考えています。



●理事リレーコラム

「私と市民活動10年」

紅邑 晶子(常務理事・事務局長/CSR推進相談所所長)

今から10年前の1999年の今ごろ、当センターの理事会では仙台市の市民活動サポートセンターの管理・運営をやるかどうかについて検討していました。というのも、市民活動支援の重要性が自治体にとっても、また私たち市民にとっても必要であるところから、官設NPO営という形で誕生する新しい試みだったからです。公募で施設運営団体を募集することになり、行われた説明会には、多くの人たちが参加しました。しかし、そこで示された委託料は想像していた金額を大きく下回るもので、理事会では組織の運営にとってリスクを伴うこのような事業を行うべきかどうか、激しい議論が交わされました。

この年はNPO法ができたことに伴い、当センターも7月1日にむけて法人化をする準備を進めていました。さらに、秋にはNPOの全国大会「NPOフォーラム」を仙台で開催することになり、まだ歩き始めたばかりで組織基盤も整っていないなか、組織を2つのチームに分けて大きな事業に取り組むことになりました。また、NPOフォーラムの準備で事務所が手狭になり、ちょうどいいタイミングで知人の紹介により「岡元ビル」を紹介していただき、好条件でお盆のさなかに引っ越しをしたのもこの年でした。

組織と共に、またNPO法とともに歩んだこの10年。これからの私と市民活動について考えると、組織にとらわれずにもっと自分を生かして社会のお役に立つ仕事をしていきたいと思っています。また、最近耳にした「非営利組織型株式会社」とか、ソーシャルビジネスといったものを立ち上げることにチャレンジして、NPO以外のかたちでも社会をよくする仕事ができればと思っています。

学生の可能性を広げるCARES・ケアーズ

毎年11月に行われている「せんだいCARES」は、仙台で活動するNPOと企業、行政、市民をつないで、「みんなにとって住みやすい仙台をつくらう」という広い意味でのまちづくりキャンペーン。そのCARESに参加している団体へお手伝いに行ってお世話(CARE)して、応援しちゃおうという「CARES・ケアーズ」の対象は大学生。今回は、仙台市内で活動する団体12団体に、東北大学、東北学院

大学、東北福祉大学、宮城学院大学の学生15名が参加しました。受け入れ団体の分野としては、「福祉」「環境」「国際協力」「人権」「中間支援」と多岐に渡りました。学生たちは、「CARES・ケアーズ」を通して、NPO・市民活動という企業とは違った社会の現場があることを体験。自分たちが住んでいる地域の社会問題について考え、学生自身の視野を広げるきっかけになったようです。また、受け入れ団体の方からも、普段接点のなかった大学生が活動に加わる

■活動ダイアリー

アートワークショップ ～線の絵覧板～

年明け早々の1月10日(土)、多賀城市市民活動サポートセンターにて、大学で油絵を専攻していた私・近藤(多賀サポスタッフ)が講師となり「アフタースクールのびのびクラブ」の子どもたちとお母さん、ボランティアさんの16人を対象にワークショップ「線の絵覧板」を行いました。

アフタースクールのびのびクラブ

2005年設立。多賀城市内で主に自閉症の子どもを持つ親たちが集り「子どもたちが放課後や休日に学校と家庭以外でも過ごせる場をつくらう」という思いから生まれた団体で、週2回の放課後クラブを開設しています。

■アートを通してのコミュニケーション

円になった参加者に画用紙を1枚配布し、絵具・色鉛筆・マジック・パステルなどのさまざまな素材を手にとって自分の好きな線を描いていきます。5分くらい経過すると、画用紙を回覧板に見立て時計回りに隣の人に回し、他の人が描いた線の上に自分の線を重ねて描いていきます。画用紙が1周して自分の場所に戻ってきたところで終了です。他の人の絵に書き込んでいくことや、自分の絵が書き加えられてしまうことに抵抗感を感じてしまうのでは? という懸念もありましたが、みんなグイグイと力強いラインと軽快なタッチで線を描いていきました。その思い切りの良さには、思わず見とれてしまうシーンもありました。このように『線の絵覧板』とは、アートを通して他者とコミュニケーションをとっていかうとする試みです。

■毎月1回のワークショップへ

今回はお試し企画として実施しましたが、参加者のお母さんから「この次はいつあるんですか?」との声があがって、代表の倉田結花さんと「毎月1回たがサポでやっていきましょう」という話になりました。今後、このワークショップを通しながら、絵を好きになる子、物を作ることに喜びや達成感を見つけられる子、また公共の場に自分の作品を発表して自信へとつながる子が生まれるお手伝いをしたいと思っています。(近藤浩平)

ことで、「このような活動があるということを知ってもらう機会になって大変よかった」、とのコメントをいただきました。なお、今回は株式会社デユナミスの協力により無事終了することができました。これからもNPO、企業、学生、行政、と違った分野の垣根を越えて、学生が多くの価値観を学べる機会を提供する場として「CARES・ケアーズ」を企画していきたいと思っています。(田内亜紀子)



らんち de MATCH♪

第2回

1月のとある日、市内中心部にあるしゃぶしゃぶ屋さんの個室にて、第2回「らんち de MATCH♪」が開かれました。今回のゲストは、特定非営利活動法人環境会議所東北常務理事の山岡講子さま、財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク事務局統括の小林幸司さま、特定非営利活動法人水環境ネット東北事務局の菅原正徳さま、そして当センターより紅邑常務理事と小川の5名。国産牛をしゃぶしゃぶしながら、話題は若手スタッフへの熱い想い!ここでは現場を知ることとネットワークの重要性について、幹部の皆様からの気になるメッセージをピックアップしてみました。

現場に出ることの重要性

自分の団体にだけいるんじゃなくて、外(の組織)にドンドン出て行ってほしいよね。

「現場」を知らなければ、知識がいくらあってもそれだけじゃ足りない!

頭でっかちで知識は知ってるんだけど、「じゃっ、動いたら」って言ってもなかなか動けないんだよ。

だから、やっぱり現場を知ることが重要!自分の価値観の中だけで居心地よくいる若者が多い。現場に出るとその固定観念を破らざるを得ない。価値観が違い過ぎて。

確かにセオリーとしては正しいことを言ってるんだけど、現場はセオリー通りになんか動かない。ケースバイケースで動くんだってことを理解して欲しい。

ネットワークづくり

外の会議後に参加者と飲みに行ったりするのがネットワーク作りには重要だったりするんだけど、もしかしたらただ遊んでるだけって思われてるかもしれない。人と会わないことには何も始まらないんだけどね。

おしゃべりから得られることって本当に多い!ってことが分かってくるとドンドン外に出たいって気になるんだろうけど。

パソコンでメールだけしてたってネットワークなんて深まらない!

「この人とつながりたい!」という人に出会ったら、翌日とかすぐ連絡をとって次につなげるべし!

「まじめな雑談」をもっともっとしなくちゃ!

「まじめな雑談」が少なくなると、どうしても人間関係がギクシャクしがちになるよね。

最後に「自分がスタッフから悪く思われるのが嫌だと思ったら指導は難しいよね。」「恨まれるのも覚悟して(アドバイス)している。」などという発言もあり、日頃の気苦労が伺われるようでした。皆さん、そういう想いでスタッフの育成をなさっているのですね。若手スタッフの皆さん!現場に出ましょう!まじめな雑談をしましょう! (小川真美)